

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690600014		
法人名	有限会社コミュニケーション		
事業所名	グループホームひばり		
所在地	徳島県三好市井川町西井川375		
自己評価作成日	平成26年6月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成26年10月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣の保育所や、小学校との交流により、利用者が楽しめる時間作りをしている。利用者、職員と一緒に洗濯、掃除、野菜の植え付け、草むき、収穫等を行う事で、家庭的な生活を実感でき、笑顔で過ごせる様な取り組みを行っている。少しの気付きも、職員間で話し合い、また、家族や推進会議での意見を参考に、利用者一人ひとりが、安心して生活出来る様に取り組んでいる。清潔な環境の中で生活し、頂けるようよう、掃除、整理整頓、清潔な衣類に気をつけ、匂いのない施設作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、笑顔と丁寧なケア、清潔をモットーにしており、職員は、つねにそれらを意識してケアの実践に努めている。良質な職場環境や職員同士のコミュニケーションが介護力に繋がりを、利用者への対応時には、自然に笑顔で接することができている。また職員は、利用者本人や家族との意思疎通に努め、状態に応じたひとつひとつの日常生活動作の支援を、時間をかけ丁寧に行っている。事業所は、生活空間での不快な臭いの排除を心がけ、清掃を徹底し、換気や空気清浄をすまめに行っている。長い時間を過ごす居間や食堂は窓が大きく、採光にも配慮している。利用者の席からは、外の木々や山々の景色が目に入り、時間や季節の流れを感じることができる生活空間となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は毎日の申し送りや、職員会議の際、理念を唱和し再確認しながら、より良い方向に実践している。	事業所は、目につきやすい場所へ理念を掲示し、勤務開始前には全員で理念を唱和し、意識づけを行っている。具体化した月間目標に置き換え、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時には、地域の方と挨拶したり、野菜の作り方を教えていただいたり、野菜を頂いたりしている。近隣の保育所や、小学校から慰問があり交流を行っている。	地域の保育所や小学校の子どもたちが来訪してくれたり、地域自主防災訓練時には利用者と職員もできるだけ参加するなど、相互の交流を図っている。また、事業所の菜園では、近隣住民の方に野菜作りを教えてもらっており、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の見学はあるが、地域の方への浸透は図れていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や、行事の報告を行っている。出された意見や要望は、職員会議で話し合いサービス向上につなげている。会議内容は、施設内に掲示している。	運営推進会議には、民生委員や家族代表、地域警察官等の参加があり、運営状況の公開に加え、外部目線での要望や情報入手などの意見交換の場となっている。気づきや意見を職員会議で話し合い、経過は次会で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当窓口へ月次報告を行っている。事業所の抱える課題やわからない事は、相談して助言をして頂いている。	職員は、市の担当窓口への月次報告や運営推進会議等の関わりのなかで、市担当者と情報交換を行い、協力関係の構築に努めている。課題解決にむけて、そのつど相談を行い、助言や指導を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の勉強会を実施し、全職員が身体拘束の弊害を理解している。落ち着いた利用者には、見守り、居場所の確認を徹底するなどして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員は、利用者の状態把握に努め、見守りを重視している。行動を抑制することなく、利用者の要望に気づくことで、声かけや誘導を工夫し、安全な暮らしを支援している。玄関の施錠も、職員体制の工夫で安全を確保しつつ、開放時間を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止防止の勉強会を実施し、職員会議や、申し送り時に話し合い、虐待を見逃さず事がないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会を実施し、全職員が理解を深め、活用出来る様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書一つひとつ説明し、不安や疑問が解決出来る様、十分に時間を設け、理解、納得してもらえるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に利用者の近況報告しながら、意見や要望を伺う様にしている。家族の思いをしっかりと受け止め、運営に反映できるよう努めている。玄関に意見箱を設置している。	事業所は、家族の来訪時や通信時に利用者の近況報告を行い、そのつど、意見や要望を聴いている。関係者間で改善実施に向けた話し合いがもたれ、運営推進会議で報告されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、申し送りノートを通じて意見や要望を出せるようにしている。出された意見は反映している。	代表者と管理者は、現場での職員との関わりを重視し、日頃からコミュニケーションを図っている。職員が意見を出しやすい環境をつくり、状況把握に努め、出された意見は検討し、運営面に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の話しを真剣に聞いてくれ、仕事がしやすいように、便宜を図ってくれている。また健康面も留意し、定期的に健康診断や、予防接種を行ってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、各職員の資格習得に向けた取り組みの支援と、力強い励ましをしてきている。研修参加にも、力を入れてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームを見学する機会を作ってもらい、そこで知り得た新しい知識を現場で生かし、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なく生活出来るよう、家での生活、困っている事、不安に思う事、等をゆっくり傾聴し、要望の実現について話すことにより、安心感を持って頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談に来られた時は、十分な時間を設け、不安な事、困っている事を聞き、事業所が出来る事も説明し理解してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族にとって、最も適したサービスが受けられるよう、必要に応じて他のサービス利用も含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯などの家事を、利用者と職員が一緒に行う事で、共に支え合いながら暮らしていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や電話などで、日頃の状況を報告し、家族の希望を聞き、利用者の望む暮らしを家族とともに考え、支援出来る様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に行きつけの美容院に出かけたり、知人や友人の面会や電話などで、会話が出来る時間を設けている。馴染みの人や、場所との関係が途切れないよう、家族にも協力してもらっている。	職員は、家族との連絡を密に取り、協力を得て、利用者の馴染みの場所への外出支援を行っている。また、外出が困難な利用者には、家族や知人に参加してもらって話すことのできる機会を設けるなど、これまでの関係を継続することができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員が、楽しく参加出来る様な、レクリエーションや行事を行い、利用者同士が関わりあえるよう取り組んでいる。利用者同士の関わりが困難な場合には、職員が間に入り、孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も年賀状を出したり、相談があったときは、応じるなどの援助を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりと、ゆっくり関わる時間を設け、利用者の言葉や、表情などから、思いや意向を把握できるよう努めている。	全職員は、日々変化する本人の意向の把握に努めている。言葉や感情の表出の少ない利用者には、声のトーンや仕草から真意を押し測り、思いの実現に向けた支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に利用者や家族から、情報を収集するように努めている。入所後は、その都度、本人や家族から、これまでの暮らしの情報を、聞く様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや、食事摂取量、排泄、睡眠状態を記録し、一人ひとりの心身状態や、生活リズムが把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中から、利用者の思いを感じ取り、家族から意向を聞き、介護計画を作成している。全職員で意見を出し合い、3ヶ月ごとの見直しを行っている。	全関係者が利用者の状態把握に努め、事業所全体で関わることで、多方向からの気づきを汲み上げ、集約している。職員会議で話し合い、本人や家族の意向を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や、介護記録に日頃の状況を記録し、ミーティングで気づきを話し合い、ケアの実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の特性を活かし、利用者や家族が希望する事を、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域周辺の散歩などをし、地域の方と挨拶を交わしたりと交流して頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族の協力で通院したり、利用者一人ひとりの希望に応じた受診体制をとり、利用者が安心して暮らす事が出来るよう支援している。	本人や家族の希望に応じた、かかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関の往診を受ける利用者が多いが、通院の際は家族の協力を得たり、必要に応じて職員が同行したりしている。診察結果は随時、家族に報告し意向を確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や、気づいた事は、その都度看護師に報告、相談し状態に応じた対応をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院にお見舞いに伺い、病院関係者との情報交換を行い、早期退院が出来る様に連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の段階で、事業所の出来る最大の、ケアの範囲について説明している。事業所による支援が困難になった場合には、家族や、医療機関などの関係者と連携を図り対応している。	事業所は契約の際に、重度化した場合や終末期の支援について、事業所が対応しうる最大のケアについて本人や家族に説明している。利用者の状態変化に応じて家族に意向を確認し、医療機関と連携を図り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、緊急時や事故発生時に備えている。玄関にAEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。消防署指導のもと、夜間想定での避難訓練を実施している。	事業所は、消防署の指導のもと、利用者全員参加の避難訓練を実施している。職員は、災害想定で壁の強度を確認したり、自作の簡易担架での搬送や初期消火を体験したりして、実践対応に備えている。また、近隣住民への協力依頼も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への対応の勉強会を実施し、利用者の誇りや、尊厳を傷つける事のないよう、全職員が意識して、言葉かけや、行動に注意している。	全職員は勉強会に参加し、利用者の誇りやプライバシー確保について、具体的に確認している。本人の気持ちを最優先に考え、意見や意向を聞いて対応や支援を行うよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと利用者に関わりを持ち、利用者の思いを感じ取れるように努めている。利用者が、自己決定出来る様に、さりげない言葉かけや、行動に注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められたスケジュールはなく、利用者の要望に応じて、柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば、本人の望む美容室で、カットや毛染めが出来るよう支援している。定期的に美容師の来訪がありカットして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひばり農園で作った新鮮な野菜で、食事を作り季節を感じてもらっている。利用者は一人ひとりの力量に応じて、下膳やテーブル拭き、後片付けを一緒にしている。	事業所は、週2日は利用者の好みや旬の食材を取り入れた、オリジナルメニューを提供している。心地よい音楽が流れるなか、一人ひとりのペースで落ち着いて食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個人個人に合った量に調整し、食事のすまない方には、カロリージュースなどで、足りない栄養を摂れるよう支援し、水分量の少ない方には、好みの物を飲んで頂いたり、こまめに水分補給をしている。定期的に体重測定実施。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。利用者一人ひとりに合わせて、見守りや、一部介助を行っている。また、必要時には、歯科往診も依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗がないよう、一人ひとり排泄パターンに応じたトイレ誘導を行っている。日中のオムツ使用は無く、紙パンツや布パンツで、過ごして頂いている。	利用者一人ひとりの排泄パターンや能力を職員が把握し、トイレでの排泄を支援している。職員は、声かけて動作を促したり、部分的な介助のみを行い、本人の能力に応じた自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を全職員が把握できるよう、排泄表に記録している。食事、水分補給、生活運動に配慮し、便秘予防に努めている。頑固な便秘の方には、家族に協力して頂き、牛乳や、ヨーグルトなどを飲んでいただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者が安心して入浴出来る様、その日の体調や、気分に応じて入浴の支援を行っている。拒む方には、無理強いせず、日を変え、気分のいい日に、入浴して頂いている。	利用者の体調を考慮したうえで、本人の意向を聞き、入浴を実施している。職員は利用者全員が、安全で快適に入浴を楽しめるよう、会話をしつつ、ゆったりと介助にあたっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、眠い時は居室や、和室で休んで頂けるよう支援している。夜間は、部屋の温度、布団の調整、パジャマの調整などを行い、安心して、気持ち良く眠れる空間づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書をファイルのまとめ、必要な時には、すぐ確認出来る様にしている。症状が悪化する様な時は、すぐ主治医に連絡がとれる体制を整えている。薬の変更があれば必ず、申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気の合う方と過ごしたり、散歩や外気浴に出かけ気分転換をして頂いている。職員が一人ひとりの、好みや、楽しみを把握し、日常生活に取り入れる様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、家族の方と外出したり、お墓参りに行ったり、お見舞いに行ったりする事が出来るよう支援している。	天候の良い日は、希望を聞いて2~3人ずつ職員が付き添い、近隣の散歩を行っている。また、利用者の歩行能力に応じて庭を開放し、日光浴を楽しんでもらっている。職員は、買い出しの際にも利用者の希望を聞き、一緒に外出する機会をつくっている。家族の支援が得られる方には、希望に応じて随時外出して頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を出来る方がほとんどなく、金銭を所持出来ないのが現状です。必要な金銭は施設で預かり、小遣い帳に記録している。使った小遣いは、毎月家族に書面や面会時に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や、手紙などのやりとりが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面には、利用者とともに制作した貼り絵や、季節に応じた飾り付けなどで、季節感のある空間づくりに努めている。空調により快適な温度や、癒しの音などで、利用者が居心地良く、安心して生活が送れるよう配慮している。	共用フロアは、季節感を取り入れた温かみのある手作り作品が掲示され、居心地よく過ごせる環境を整備している。また、採光や空調に留意し、利用者が落ち着いて過ごせる空間作りに努めている。清潔を重視し、臭気にも配慮している。標識も簡潔で分かりやすい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士で、和室やソファーでのんびり、ゆっくりとくつろげるような空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、本人や家族に、使い慣れた物を持ち込んでもらえるように説明している。好みの物や、写真など、馴染みのある物を居室に飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。	本人の使い慣れた物や好みの物を持ち込んでもらい、居心地の良さを家族と一緒に考えている。生活動線や転倒に留意し、家具等の配置を個別に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、手すりも多く設置している。歩行や移動の際には、声かけ、付き添いを行い、安全に生活出来る配慮をしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成している。また、月間目標を毎月決め、理念と一緒に唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時には、地域の方と挨拶したり、野菜の作り方を教えていただいたり、野菜を頂いたりしている。近隣の保育所や、小学校から慰問があり交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の見学はあるが、地域の方への浸透は図れていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や、行事の報告を行っている。出された意見や要望は、職員会議で話し合いサービス向上につなげている。会議内容は、施設内に掲示している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当窓口月に月次報告を行っている。事業所の抱える課題やわからない事は、相談して助言をして頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の勉強会を実施し、全職員が身体拘束の弊害を理解している。落ち着いた利用者には、見守り、居場所の確認を徹底するなどして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止防止の勉強会を実施し、職員会議や、申し送り時に話し合い、虐待を見過ごす事がないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会に参加し、研修内容の報告書を作成し、職員全員の理解を高めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書一つひとつ説明し、不安や疑問が解決出来る様、十分に時間を設け、理解、納得してもらえるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に利用者の近況報告しながら、意見や要望を伺う様にしている。家族の思いをしっかりと受け止め、運営に反映できるよう努めている。玄関に意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートや、職員会議などでの意見や提案を出し合って、運営に反映している。代表者は頻繁に事業所を訪れ、積極的に利用者や職員と接している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の話しを真剣に聞いてくれ、仕事がしやすいように、便宜を図ってくれている。また健康面も留意し、定期的に健康診断や、予防接種を行ってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、各職員の資格習得に向けた取り組みの支援と、力強い励ましをしてきている。研修参加にも、力を入れてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会の参加により、同業者との、意見交換する事が出来ている。他施設へ訪問し交流する事で、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	B棟	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なく生活出来るよう、家での生活、困っている事、不安に思う事、等をゆっくり傾聴し、要望の実現について話すことにより、安心感を持って頂けるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談に来られた時は、十分な時間を設け、不安な事、困っている事を聞き、事業所が出来る事も説明し理解してもらっている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族にとって、最も適したサービスが受けられるよう、必要に応じて他のサービス利用も含めて対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯などの家事を、利用者と職員が一緒に行う事で、共に支え合いながら暮らしていけるよう努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や電話などで、日頃の状況を報告し、家族の希望を聞き、利用者の望む暮らしを家族とともに考え、支援出来る様に努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に行きつけの美容院に出かけたり、知人や友人の面会や電話などで、会話が出来る時間を設けている。馴染みの人や、場所との関係が途切れないよう、家族にも協力をしてもらっている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員が、楽しく参加出来る様な、レクリエーションや行事を行い、利用者同士が関わりあえるよう取り組んでいる。利用者同士の関わりが困難な場合には、職員が間に入り、孤立しないよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も年賀状を出したり、相談があったときは、応じるなどの援助を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりと、ゆっくり関わる時間を設け、利用者の言葉や、表情などから、思いや意向を把握できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に利用者や家族から、情報を収集するように努めている。入所後は、その都度、本人や家族から、これまでの暮らしの情報を、聞く様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや、食事摂取量、排泄、睡眠状態を記録し、一人ひとりの心身状態や、生活リズムが把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、利用者の希望や、要望を聞き、思いを感じ取り、家族の意向も聞き、介護計画を作成している。全職員で、意見を出し合い3ヶ月ごとに見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の状況や、気づき、工夫などを業務日誌、介護記録、申し送りノートに記入し、ミーティングで共有し、ケア向上の実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の特性を活かし、利用者や家族が希望する事を、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域周辺の散歩などをし、地域の方と挨拶を交わしたりと交流して頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族の協力で通院したり、利用者一人ひとりの希望に応じた受診体制をとり、利用者が安心して暮らす事が出来るよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や、気づいた事は、その都度看護師に報告、相談し状態に応じた対応をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院にお見舞いに伺い、病院関係者との情報交換を行い、早期退院が出来る様に連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の段階で、事業所の出来る最大の、ケアの範囲について説明している。事業所による支援が困難になった場合には、家族や、医療機関などの関係者と連携を図り対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、緊急時や事故発生時に備えている。玄関にAEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。消防署指導のもと、夜間想定避難訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	B棟	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への対応の勉強会を実施し、利用者の誇りや、尊厳を傷つける事のないよう、全職員が意識して、言葉かけや、行動に注意している。					
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり利用者に関わり、思いを感じとれるように努めている。さりげない言葉かけや、行動により利用者が自己決定出来る様に支援している。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められたスケジュールはなく、利用者の要望に応じて、柔軟な対応をしている。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば、本人の望む美容室で、カットや毛染めが出来るよう支援している。定期的に美容師の来訪がありカットして頂いている。					
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひばり農園で作った新鮮な野菜で、食事を作り季節を感じてもらっている。利用者は一人ひとりの力量に応じて、下膳やテーブル拭き、後片付けを一緒にしている。					
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個人個人に合った量に調整し、食事のすまない方には、カロリージュースなどで、足りない栄養を摂れるよう支援し、水分量の少ない方には、好みの物を飲んで頂いたり、こまめに水分補給をしている。定期的に体重測定実施。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。利用者一人ひとりに合わせて、見守りや、一部介助を行っている。また、必要時には、歯科往診も依頼している。					

自己	外部	項目	自己評価	B棟	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている		排泄の失敗がないよう、一人ひとり排泄パターンに応じたトイレ誘導を行っている。日中のオムツ使用は無く、紙パンツや布パンツで、過ごして頂いている。				
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		排便状況を全職員が把握できるよう、排泄表に記録している。食事、水分補給、生活運動に配慮し、便秘予防に努めている。頑固な便秘の方には、家族に協力して頂き、牛乳や、ヨーグルトなどを飲んでいただいている。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている		利用者が安心して入浴出来る様、その日の体調や、気分に応じて入浴の支援を行っている。拒む方には、無理強いせず、日を変え、気分のいい日に、入浴して頂いている。				
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		日中、眠い時は居室や、和室で休んで頂けるよう支援している。夜間は、部屋の温度、布団の調整、パジャマの調整などを行い、安心して、気持ち良く眠れる空間づくりに努めている。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		服薬説明書をファイルのまとめ、必要な時には、すぐ確認出来る様にしている。症状が悪化する様な時は、すぐ主治医に連絡がとれる体制を整えている。薬の変更があれば必ず、申し送りをしている。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		気の合う方と過ごしたり、散歩や外気浴に出かけ気分転換をして頂いている。職員が一人ひとりの、好みや、楽しみを把握し、日常生活に取り入れる様にしている。				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		希望があれば、家族の方と外出したり、お墓参りに行ったり、お見舞いに行ったりする事が出来るよう支援している。				

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を出来る方がほとんどなく、金銭を所持出来ないのが現状です。必要な金銭は施設で預かり、小遣い帳に記録している。使った小遣いは、毎月家族に書面や面会時に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や、手紙などのやりとりが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面には、利用者とともに制作した貼り絵や、季節に応じた飾り付けなどで、季節感のある空間づくりに努めている。空調により快適な温度や、癒しの音などで、利用者が居心地良く、安心して生活が送れるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士で、和室やソファーでのんびり、ゆっくりとくつろげるような空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、本人や家族に、使い慣れた物を持ち込んでもらえるように説明している。好みの物や、写真など、馴染みのある物を居室に飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、手すりも多く設置している。歩行や移動の際には、声かけ、付き添いを行い、安全に生活出来る配慮をしている。		